

無人航空機登録講習機関における 管理者及び講師（修了審査員）に対するeラーニング研修教材のご案内

- 1、研修メニューは、「管理者研修」「一等講師研修」「二等講師研修」がございます。
管理者研修と講師研修の内容はリンクしていますので、一貫性を持った研修となっています。
 - ・講師研修で行ったワークを管理者研修にて確認を促し、必要があれば社内で共有。
 - ・管理者研修で「講師に共有すべき内容」となっているものは、講師研修のカリキュラムにも組み込まれています。

- 3、eラーニングで研修が完了するため、講師のスケジュール調整が不要です。
(一部、実技の演習がありますが、個人で実施できる内容です)
受講記録は、eラーニングで管理・記録できるので、監査も安心。



- 4、eラーニングは、動画・研修資料・ワークがあります。
ワークは、スクール責任者へ提出していただくため、研修の様子が把握できます。

5、充実の研修内容

研修内容は無人航空機の登録講習機関及び登録更新講習機関に関する省令に於ける登録講習機関の教育の内容の基準等を定める告示に沿っております。

一等講師研修：研修資料（221p）・動画（14時間分以上）・ワーク（26）

二等講師研修：研修資料（161p）・動画（10時間分以上）・ワーク（19）

管理者研修：研修資料（21p）・動画（25分）

eラーニングも見やすい画面・簡単操作！



料金：3年間eラーニング使用契約・5アカウントまで使用可能（管理者、講師）

法改正、国土交通省通達、細則、運用変更に伴うテキスト更新随時行います。

導入時：55,000円

1年間：66,000円（3年契約） 月々分割払いの場合：5,830円/月

支払い方法：振り込み、クレジット払い（月々の場合はカード自動引き落としのみ）

(例) 一等講師研修カリキュラム

1 講師研修概要及び講師の心得について

- 1.1 各研修科目の研修方法及び基準割当時間
- 1.2 講師の心得及び服装
 - 1.2.1 安全性
 - 1.2.2 均一性
 - 1.2.3 信頼性
 - 1.2.4 連携
 - 1.2.5 講師の服装について
 - 1.2.6 スクールにおける服装、その他ルールについて

2 無人航空機に関する一般知識

- 2.1 無人航空機の種類
- 2.2 無人航空機操縦者技能証明
 - 2.2.1 無人航空機操縦者技能証明の概要
 - 2.2.2 無人航空機操縦者技能証明の種類
 - 2.2.3 無人航空機操縦者技能証明の取得方法
 - 2.2.4 無人航空機操縦者技能証明取得にかかる費用
 - 2.2.5 無人航空機操縦者技能証明の資格要件
 - 2.2.6 技能証明の取消し等
 - 2.2.7 技能証明の更新
- 2.3 無人航空機の飛行許可・承認手続
 - 2.3.1 無人航空機の運航に関する法体系（令和5年4月5日時点）
 - 2.3.2 無人航空機の飛行許可・承認手続き
 - 2.3.3 国土交通省、地方航空局及び空港事務所の連絡先等一覧

3 講習の指導方法（学科）

- 3.1 学科講習の目的
- 3.2 学科講習の実施基準
- 3.3 学科講習の必要履修科目とその時間数
- 3.4 一等学科試験と二等学科試験の科目の違いについて
- 3.5 ○○スクールの学科実地方法
- 3.6 学科講習をする際に気をつける事
 - 3.6.1 対面講習
 - 3.6.2 オンライン講習
 - 3.6.3 eラーニング

4 学科の復習1

- 4.1 規制されている飛行空域と飛行方法
- 4.2 無人航空機の飛行形態の分類（カテゴリーⅠ～Ⅲ）
- 4.3 規制対象となる飛行の空域及び方法（特定飛行）の補足事項
- 4.4 小型無人機等飛行禁止法

5 学科の復習2

- 5.1 操縦者の義務
- 5.2 特定飛行する際の運航ルール
- 5.3 機体認証を受けた無人航空機を飛行させる際の運航ルール
- 5.4 罰則
- 5.5 運航管理体制（安全確保措置・リスク管理等）
- 5.6 気象の基礎知識及び気象情報を基にしたリスク評価並びに運航の計画の立案
 - 5.6.1 気象の重要性及び情報源
 - 5.6.2 気象の影響

6 学科の復習3（一等講師のみ）

- 6.1 一等のみの学科内容
- 6.2 無人航空機の飛行性能
- 6.3 飛行性能の基本的な計算
- 6.4 飛行機の揚力・回転翼航空機の推力
- 6.5 飛行機の滑空距離
- 6.6 水平到達距離（水平投射の場合）
- 6.7 フレネルゾーン半径と必要なアンテナの高さ

7 学科の復習4（一等講師のみ）

- 7.1 カテゴリーⅢ飛行において追加となる経路設定の注意点
- 7.2 カテゴリーⅢ飛行におけるリスク評価
- 7.3 カテゴリーⅢ飛行におけるリスク評価の基本的な考え方
- 7.4 リスク軽減策を記載した飛行マニュアル
- 7.5 リスク評価ガイドラインによるリスク評価手法
 - 7.5.1 リスク評価のための基本的なコンセプト
 - 7.5.2 リスク評価手法
- 7.6 CRM（Crew Resource Management）
 - 7.6.1 CRMとは
 - 7.6.2 CRMの必要性

8 学科修了審査要領

- 8.1 無人航空機操縦者技能証明の学科試験範囲
- 8.2 学科試験概要
- 8.3 学科試験の申し込み方法
- 8.4 試験当日の受験
- 8.5 試験内容の把握
- 8.6 学科の質問を受けた時の対応方法
- 8.7 学科試験での出題実績のある項目

7 学科の復習4（一等講師のみ）

- 7.1 カテゴリーⅢ飛行において追加となる経路設定の注意点
- 7.2 カテゴリーⅢ飛行におけるリスク評価
- 7.3 カテゴリーⅢ飛行におけるリスク評価の基本的な考え方
- 7.4 リスク軽減策を記載した飛行マニュアル
- 7.5 リスク評価ガイドラインによるリスク評価手法

8 学科修了審査要領

- 8.1 オンライン講習
(双方型・zoomなどを使用したもの、eラーニング)の実施基準
- 8.2 学科試験での出題実績のある項目
- 8.3 練習問題

9 講習の指導方法（実地）

- 9.1 講習の内容
- 9.2 講師の数
- 9.3 全般
- 9.4 細部指導要領
- 9.5 実地試験の概要 1
 - 9.5.1 机上試験に対する講習（二等）
 - 9.5.2 口述試験（飛行前点検）に対する講習

10 1 実地試験の概要 2

- 10.1.1 実地試験に向けた講習（二等）

11 1 実地試験の概要 3

- 11.1.1 実地試験に向けた講習（二等）
- 11.1.2 口述試験（飛行後の点検及び記録）に対する講習
- 11.1.3 口述試験（事故、重大インシデントの報告及びその対応）に対する講習

12 1 実地試験の概要 4

- 12.1.1 机上試験に対する講習（一等）
- 12.1.2 実地試験に向けた講習（一等）

13 1 実地試験の概要 5

- 13.1.1 実地試験に向けた講習（一等）

14 修了審査要領（実地）

- 14.1 全般の実施要領
- 14.2 判定の要領
 - 14.2.1 必要に応じた公表
 - 14.2.2 判定方法
 - 14.2.3 判定結果の伝達
 - 14.2.4 修了審査員としての責務
- 14.3 減点項目について
- 14.4 全般
- 14.5 実地試験の構成（一等）
 - 14.5.1 机上試験（一等）
 - 14.5.2 口述試験（飛行前点検）
 - 14.5.3 実地試験（一等）
 - 14.5.4 口述試験（飛行後の点検と記録）
 - 14.5.5 口述試験（事故、重大インシデントの報告）
- 14.6 実地試験の構成（一等）
 - 14.6.1 机上試験（一等）
 - 14.6.2 口述試験（飛行前点検）
 - 14.6.3 実地試験（一等）
 - 14.6.4 口述試験（飛行後の点検と記録）
 - 14.6.5 口述試験（事故、重大インシデントの報告）
- 14.7 実地試験の構成（一等）
 - 14.7.1 机上試験（一等）
 - 14.7.2 実地試験（一等）

お問い合わせ先
ドローン総合コンサルティング
info@drone-exam.jp